

医療労働者

医療・介護・福祉労働者の生活と権利、国民の命と健康を守る

(昭和36年9月15日)
 (第三種郵便物認可)

購読の申し込みは
日本医労連へ
 購読料 年間1,500円(送料込)
 (組合員の購読料は組合費に含む)
 送金口座 中央労金荒川支店(普通預金)1123296
 郵便振替 00160-6-84866
 ホームページ http://www.irouren.or.jp/
 電子メール n-ask@irouren.or.jp

安全・安心の医療・介護実現求め 国会議員要請行動

**署名提出
 15万8993筆**

日本医労連は3月5日、自治労連・全大教とともに、「2025年春3・5国会議員要請・意思統一集会」を開催。5全国組合42県医労連と自治労連・全大教・国会議員・秘書などを含め332人が参加し、500名以上の国会議員を訪問しました。

国会議員要請に向けた意思統一集会
 集会開会にあたり日本医労連・佐々木悦子中央執行委員長が、「人手不足が深刻で医療崩壊、介護崩壊はすでに始まっていると言っても過言ではない状況。この状況を改善するためにも多くの国会議員に職場の実態を訴え、大幅増員、夜勤改善署名を積み上げて、私たちの声を国会へ届けよう」とあいさつを行いました。集会には、立憲民主党、国民民主党、日本共産党、社会民主党、れいわ新選組、沖縄の風から26名(秘書含む)の国会議員にお越しいただき、16名の議員より激励のあいさつをいただきました。



各団体より3本の取り組み報告が行われました。全大教の山城美奈子さんからは、琉球大学の賃上げ状況にふれ「このままでは質の高い医療が提供できない。この現状を要請行動で知らせたい」と話しました。続いて、自治労連医療部会の西博美副議長が自治労連医療部会の取り組みを報告し、「集会や行動を通して改めて署名の意義を伝える取り組みを進めていく」と述べました。最後に全医労副委員長松本よし子さんが、2月28日に行った全医労ストライキ行動について報告。「国立病院は国民の命と暮らしを守る最後の砦。良い医療の実現のために団結して共に頑張りましょう」と訴えました。

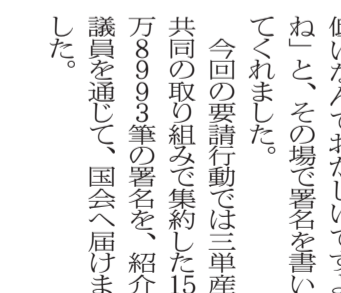
日本医労連・内田博之書記次長の行動提起で意思統一し、国会議員要請行動を行いました。行動後は、経団連前での宣伝行動を行いました。(詳細は2面)

紹介・賛同議員は129名に国会議員要請行動では、合計500名以上の国会議員に要請を行い、新たに14名の国会議員が大幅増員・夜勤改善署名の紹介議員となり、合計129名(紹介議員119名・賛同のみ10名)となりました。(3月10日時点)

47名の国会議員と面談
 今回の要請行動に向けて各県医労連を中心に事前にアポイントをとり、47名の議員本人と面会し、医療・介護現場の人手不足をはじめとする深刻な状況を伝えることが出来ました。愛知県からの参加者は、小山千帆衆議院議員(立憲民主党・愛知15区)を訪ね、新たに紹介議員を引き受けてくださり、署名を手渡しました。小山議員からは、「私も高齢者施設で働いていたことがありまして、介護職や看護師が給料低くなっていくと全労連のことに触れてくれて、なんだか嬉しかった」と愛知の被爆者でオスロでのノーベル平和賞授賞式にも参加した金本さんは9カ月での被爆で記憶はないが、15歳のお姉さんの背中でひん死状態であったところをお父さんに防火水槽に逆さまに突っ込まれ、口から瓦礫が出て息を吹き返したと語ってくれた。親に言われ仕方なく参加したと思っていた中学生の息子。帰りのバスで感想は言わないと最初言っていたのに、いざ順番が来たら、「墓参り進んで旗がたたくさんあって、仲間がこんなにいると背中を押された感じがした。来年、受験失敗してなかったらまた参加する」と感想を語っていて驚いた。中学生が焼津駅に集まった千三百人を「仲間」と感じたことが嬉しい。ヒキニ環境での水爆実験やマグロ漁船の被爆は、学校の授業で習うこともなく、知る機会が中々ない。戦後・被爆80年である今年、若い人に自分の目で見て感じてもらう機会をもっと作ってほしい。



署名する小山議員
 愛知県からの参加者は、小山千帆衆議院議員(立憲民主党・愛知15区)を訪ね、新たに紹介議員を引き受けてくださり、署名を手渡しました。小山議員からは、「私も高齢者施設で働いていたことがありまして、介護職や看護師が給料低くなっていくと全労連のことに触れてくれて、なんだか嬉しかった」と愛知の被爆者でオスロでのノーベル平和賞授賞式にも参加した金本さんは9カ月での被爆で記憶はないが、15歳のお姉さんの背中でひん死状態であったところをお父さんに防火水槽に逆さまに突っ込まれ、口から瓦礫が出て息を吹き返したと語ってくれた。親に言われ仕方なく参加したと思っていた中学生の息子。帰りのバスで感想は言わないと最初言っていたのに、いざ順番が来たら、「墓参り進んで旗がたたくさんあって、仲間がこんなにいると背中を押された感じがした。来年、受験失敗してなかったらまた参加する」と感想を語っていて驚いた。中学生が焼津駅に集まった千三百人を「仲間」と感じたことが嬉しい。ヒキニ環境での水爆実験やマグロ漁船の被爆は、学校の授業で習うこともなく、知る機会が中々ない。戦後・被爆80年である今年、若い人に自分の目で見て感じてもらう機会をもっと作ってほしい。



紹介・賛同議員一覧(3月10日時点)

徳永	エリ	立憲	北海道	●
田名部	匡代	立憲	青森	●
横沢	高徳	立憲	(比)北海道	●
寺田	静	無	秋田	●
石垣	のりこ	立憲	宮城	●
芳賀	道也	国民	山形	●
舟山	康江	国民	山形	●
堂込	麻紀子	無	茨城	●
伊藤	岳	共産	埼玉	●
上田	清司	国民	埼玉	●
打越	さく良	国民	新潟	●
杉尾	秀哉	立憲	新潟	●
羽田	次郎	立憲	長野	●
吉良	よし子	共産	東京	●
山添	拓	共産	東京	●
嘉田	由紀子	維新	滋賀	●
倉林	明子	共産	京都	●
宮口	治子	立憲	広島	●
中西	祐介	自民	徳島・高知	○
広田	一	無	徳島・高知	○
三宅	伸吾	自民	香川	●
ながえ	孝子	無	愛媛	●
野田	国義	立憲	福岡	●
伊波	洋一	立憲	沖縄	●
高良	鉄美	立憲	沖縄	●
井上	哲士	共産	比例	●
岩淵	友	共産	比例	●
大橋	ゆうこ	立憲	比例	●
紙	智子	共産	比例	●
木村	英子	共産	比例	●
小池	晃	共産	比例	●
大門	実紀史	共産	比例	●
天富	大輔	共産	比例	●
仁比	聡平	共産	比例	●
福島	みずほ	立憲	比例	●
船下	靖彦	立憲	比例	●
山下	芳生	共産	比例	●

紹介・賛同議員129名応諾一覧
 ●紹介議員○賛同のみ

道下	大樹	立憲	北海道1	●
松木	けんこう	立憲	北海道2	●
荒井	優	立憲	北海道3	●
池田	真紀	立憲	北海道5	●
山岡	達丸	立憲	北海道9	●
神谷	裕	立憲	北海道10	●
石川	香織	立憲	北海道11	●
岡田	華子	立憲	青森3	●
小沢	一郎	立憲	岩手3	●
緑川	貴士	立憲	秋田2	●
村岡	敏英	国民	秋田3	●
岡本	あき子	立憲	宮城1	●
鎌田	さゆり	立憲	宮城2	●
柳沢	剛	立憲	宮城3	●
小熊	慎司	立憲	福島3	●
青山	大人	立憲	茨城6	●
福田	昭夫	立憲	栃木2	●
小宮山	泰子	立憲	埼玉7	●
森田	俊和	立憲	埼玉12	●
安藤	じゅん子	立憲	千葉6	●
早稲田	ゆき	立憲	神奈川4	●
中谷	一馬	立憲	神奈川7	●
笠	浩史	立憲	神奈川9	●
阿部	知子	立憲	神奈川12	●
菊田	真紀子	立憲	新潟2	●
黒岩	宇洋	立憲	新潟3	●
米山	隆一	立憲	新潟4	●
梅谷	守	立憲	新潟5	●
篠原	孝	立憲	長野1	●
下条	みつ	立憲	長野2	●
神津	たけし	立憲	長野3	●
山岸	一生	立憲	東京9	●
大河原	まさこ	立憲	東京21	●
高松	智之	立憲	東京28	●
田中	健	国民	静岡4	●
西川	厚志	立憲	愛知5	●
藤原	規真	立憲	愛知10	●
重徳	和彦	立憲	愛知12	●
齋藤	アレックス	維新	滋賀1	●
山井	和則	立憲	京都6	○
井坂	信彦	立憲	兵庫1	○
山本	大地	自民	和歌山1	○
柚木	道義	立憲	岡山4	●
佐藤	公治	立憲	広島5	●
小川	淳也	立憲	香川1	○
白石	洋一	立憲	愛媛2	●
稲富	修二	立憲	福岡2	●
西岡	秀子	国民	長崎1	●
渡辺	創	立憲	宮崎1	●
川内	博史	立憲	鹿児島1	●
野間	健	立憲	鹿児島3	●
赤嶺	政賢	共産	沖縄1	●
新垣	邦男	立憲	沖縄2	●
川原田	英世	立憲	(比)北海道	●
篠田	奈保子	立憲	(比)北海道	●
西川	将人	立憲	(比)北海道	●
菊池	大二郎	国民	(比)東北	●
佐原	若子	立憲	(比)東北	●
寺田	学	立憲	(比)東北	●
升田	世喜男	立憲	(比)東北	●
堀川	鉄也	共産	(比)北関東	●
竹内	千春	立憲	(比)北関東	●
武正	公一	立憲	(比)北関東	○
長谷川	嘉一	立憲	(比)北関東	●
有田	芳生	立憲	(比)東京	●
櫛淵	万里	立憲	(比)東京	●
田村	智子	共産	(比)東京	●
嶋山	紀一郎	国民	(比)東京	○
円	より子	国民	(比)東京	●
佐々木	ナオミ	立憲	(比)南関東	●
志位	和夫	共産	(比)南関東	●
たがや	亮	立憲	(比)南関東	●
宮川	伸	立憲	(比)南関東	●
福田	淳太	立憲	(比)北陸信越	●
小山	千帆	立憲	(比)東海	●
松田	功	立憲	(比)東海	○
本村	伸子	共産	(比)東海	●
大石	あきこ	立憲	(比)近畿	●
辰巳	孝太郎	共産	(比)近畿	●
林	佑美	維新	(比)近畿	○
堀川	あきこ	共産	(比)近畿	●
八幡	愛	立憲	(比)近畿	●
津村	啓介	立憲	(比)中国	●
平岡	秀夫	立憲	(比)中国	○
福田	玄	国民	(比)中国	●
石井	智恵	国民	(比)四国	●
高橋	永	立憲	(比)四国	●
田村	貴昭	共産	(比)九州	●
堤	かなめ	立憲	(比)九州	●
長友	慎治	国民	(比)九州	●
屋良	朝博	立憲	(比)九州	●
吉川	元	立憲	(比)九州	○

脈路

被災71年となる3・1ヒキニデーに、中学生の息子と参加。早朝から新幹線と在来線を使い、継ぎ焼津駅に降り立つと、万国旗のように色とりどりの旗が揺らめいており、すぐにわかる▼集会では韓国労働組合・民主労総のハム副委員長が、「日本の全労連が日韓連帯のプランを提案してくれた。東北アジアにおいて、日韓の交流、平和連帯を強めたい」と全労連のことに触れてくれて、なんだか嬉しかった▼愛知の被爆者でオスロでのノーベル平和賞授賞式にも参加した金本さんは9カ月での被爆で記憶はないが、15歳のお姉さんの背中でひん死状態であったところをお父さんに防火水槽に逆さまに突っ込まれ、口から瓦礫が出て息を吹き返したと語ってくれた▼親に言われ仕方なく参加したと思っていた中学生の息子。帰りのバスで感想は言わないと最初言っていたのに、いざ順番が来たら、「墓参り進んで旗がたたくさんあって、仲間がこんなにいると背中を押された感じがした。来年、受験失敗してなかったらまた参加する」と感想を語っていて驚いた。中学生が焼津駅に集まった千三百人を「仲間」と感じたことが嬉しい。ヒキニ環境での水爆実験やマグロ漁船の被爆は、学校の授業で習うこともなく、知る機会が中々ない。戦後・被爆80年である今年、若い人に自分の目で見て感じてもらう機会をもっと作ってほしい。

内部留保を賃金に 医療介護の充実を

寒風はねかえす熱い訴え



3月5日の国会議員要請行動のち、経団連前宣伝行動を行いました。宣伝行動には200人以上が参加し、現場の実態と大幅賃上げの必要性を強く訴えました。

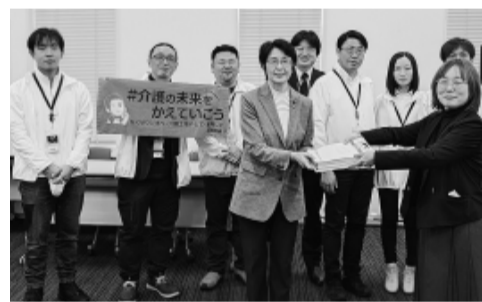
開会自治労連の橋口剛典書記長が国会予算審議の状況に触れながらあいさつ。「社会保障費が4兆円も削減されれば、今後さらに医療崩壊、介護崩壊が一気に進む。大企業の内留保の一部を使えば大幅賃上げは可能。大企業ばかり優遇されている税制を見直して適正な税負担を行えば医療崩壊・介護崩壊は防げる。経営者たちに社会的責任を果たせ」という声を伝えました。その後、全医労の森川息吹書記次

長より、「国立病院機構と3回の賃金交渉を実施したがセロ口回答。そのため2月28日に全医労ストライキ行動を実施。私たちが声をあげながら国に対しても大きく発信しなければならぬ」と訴えました。続いて、岡山県医労連の森本忠春書記長が「見せかけの賃上げでは、経済は好転しない。大企業には賃上げの体力は十分にあるはずだ。社会的責任を果たしてほしい。私たちは大幅賃上げを求めて3月13日にストライキで抗議します」と話しました。

最後に、参加者全員で経団連にむかって「大幅賃上げを行え」「医療・介護で金儲けをするな」と、シュプレヒコールをあげました。

現場実態を国会へ

北海道医労連国会議員懇談



北海道医労連は、3月5日の国会議員要請行動前日に、紙智子参議院議員（日本共産党）との国会議員懇談・意思統一集会を行いました。

懇談では、はじめに紙議員が国会情勢報告として、日本維新の会が教育無償化を条件として予算案に賛成した経過を報告。教育無償

化の財源として社会保障費を削減する方向性が示されていることに對し、「削減ではなく、社会保障等いのに関わる財源を厚くしていかなければならない。今日の懇談で現場の声を受けとめて国会論戦にいかしたい」としました。

その後、現場の状況について参加者から発言がありました。道北勤医労の丸山智康さんからは、ベア評価料が4・5%の賃上げ目標としながらも、財源が足りず十分な点やそもそも他産業に比べて賃金が低いことから、病院をやめて他産業に転職してしまう仲間がいることなどを事例をもとに説明しました。

北海道勤医労の井上晃さんから北海道内の訪問介護事業所の収益状況や、訪問介護事業所が一つもない自治体が増えている実状

を訴えながら、このままだとますます厳しい状況になっていく現状にあることを伝えました。

道東勤医労の三坂敬一さんからは、限られた報酬の中で賃上げが追いつかず、他の募集より賃金が低いため人離れが進んでいる実態を報告。介護事業者が、「最賃改定が一番こわい」と発言していたことを紹介し、介護報酬引き上げがないまま最賃が引き上げられれば、ますます事業者がなくなると危惧していることを訴えました。

これらに対し紙議員は、「大変な状況がよくわかった。力をあわせてゆがんだ政治をただしていきたい」と発言しました。懇談後は、北海道医労連三浦進書記次長から国会議員要請行動の説明をうけ、翌日の国会議員要請行動に向けた意思統一を行いました。

機構は社会的責任を果たせ!

全医労2・28ストライキ



全医労は、2月27日の賃金交渉結果をうけて、2月28日にストライキに決起しました。このストライキには、全労連や医労連のなかまも駆けつけ、全体で1000人超の参加で、職員の切実な要求に応えない機構の態度に対して抗議の声をあげました。

切実な要求に応えない機構本部

全医労は、2月27日に24年度賃金について国立病院機構（以下、機構）と第3回目の賃金交渉を実施しました。全医労は、これまで再三にわたり基本給・賞与改定を含む賃金改善を判断するように迫ってきました。ところが、2000億円もの余剰資金があるにもかかわらず、赤字補填の穴埋め6年後には法人資金が枯渇するなど強調し、機構は切実な賃金要求に応えない不当な姿勢に終始しています。

また賃金交渉前の2月には、理事長から全職員宛に「2003年1年11月、資金が無くなる」な

全国一斉ストライキを展開

全医労のストライキは、全国120以上の支部で取り組まれました。ストライキには、全労連や医労連のなかまも駆けつけ、ストライキの様子はテレビ報道やネット記事などに取り上げられました。またXデモも実施し、「#国立病院ストライキ」が2万回以上もポスト・リボストされ、トレンド入り。SNSでも反響が広がっています。

3・13スト構え交渉へ



全医労は、その後3月5日に全医労賃金闘争WEB集会を200人を超える参加者で開催。3月13日に第2波のストライキを配置しながら3月12日の賃金交渉に臨む構えです。

大企業中心に賃上げ回答が相次ぐ中で25春闘賃上げは待ったなしの状況です。大幅賃上げ獲得するため、産別一丸となって大いに奮闘しましょう。

25春闘

力を合わせて要求実現

JMITU金属労働者のつどい

JMITU（日本金属製造情報通信労働組合）らは、3月1日に、金属労働者のつどい東日本集会を青山公園南地区多目的広場で約500人の参加で開催しました。この集会は、東日本と西日本の2カ所で開催され、25春闘たたか

う意思統一を行っています。日本医労連は、1月29日に礼と共に25春闘を大幅賃上げ勝ち取るために共に奮闘する決意を述べました。翌3月2日に開催された西日本のつどいにも京都医労連の勝野由起恵執行委員長が参加し連帯のあいさつを行っています。

集会は、JMITU三木陵一委員長のあいさつや決意表明などが行われたあと、青山公園から表参道に向けてデモ行進が行われました。

デモ行進では、大幅賃上げや最低賃金の引き上げ・下請け単価の見直しなどをシュプレヒコールでアピールしながら賑やかに行われました。





2月12日に中央社保協らが主催する「介護保険制度の抜本改善・介護従事者の処遇改善を求める」署名提出集会在参議院議員会館内で行われました。会場に約150人、オンラインでは約50人が参加し、23万9700筆(日本医労連集約12596筆)を提出しました。集会には代理参加も含め13名の国会議員が参加し、署名による運動前進に

署名積み上げ介護保険制度改善へ

2月12日に中央社保協らが主催する「介護保険制度の抜本改善・介護従事者の処遇改善を求める」署名提出集会在参議院議員会館内で行われました。会場に約150人、オンラインでは約50人が参加し、23万9700筆(日本医労連集約12596筆)を提出しました。集会には代理参加も含め13名の国会議員が参加し、署名による運動前進に

確信が持てる発言や、激励がありました。実態報告では、日本医労連・井上晃介対策委員が北海道の現状を報告。訪問介護事業がない市町村の増加や、ガソリン代が経営圧迫していることにも触れ、地方にも目を向けた制度改革の必要性を訴えました。



現状を訴える井上さん



介護の未来を変えていこう!

2025年介護要求実現! 全国学習交流集会



集会は佐々木悦子中央執行委員長による開会あいさつのもと、寺田雄中央執行委員(介護対策委員会事務局長)が基調報告を行いました。寺田中央執行委員は、日本医労連の介護分野の運動の到達を振り返り、2004年度の介護運動の方針化から処遇改善の実現、制度改善の阻止へと成果につながってきたことを強調。現場職員の介護を良くする・良くしたい思いを大切に、運動を前進させていくことを呼びかけました。

2月24日〜25日に新潟・万代シルバーホテルで、2025年介護要求実現! 全国学習交流集会がOL併用で開催され、2全国組合29県医労連から96人が参加しました。

集会は佐々木悦子中央執行委員長による開会あいさつのもと、寺田雄中央執行委員(介護対策委員会事務局長)が基調報告を行いました。寺田中央執行委員は、日本医労連の介護分野の運動の到達を振り返り、2004年度の介護運動の方針化から処遇改善の実現、制度改善の阻止へと成果につながってきたことを強調。現場職員の介護を良くする・良くしたい思いを大切に、運動を前進させていくことを呼びかけました。

や、Xテモの参加などSNSの活用方法について解説。矢野さんは「ネット署名は正式な請願署名にはならないが、世論を広げる効果がある」とし、介護の世論化を広げるためにもSNSを活用していくと訴えました。

行動意欲わく特別報告

熊本からは「地域ケアユニオンの取り組み」として、中村更介対策委員が、2018年から最重点課題としている介護労働者の組織化を目的とした八代市での取り組み実践を紹介しました。和歌山からは谷口孝平介護

対策委員が、和歌山県を縦断するキャラバン行動を報告。縦横でつながりのある組織や、住民、議員と連携しながら、行政や自治体との関係を構築していることを発表しました。

開催地の新潟からは、佐藤喬士介護対策委員が、新潟県柏崎市が実施している、離職防止の観点から夜勤手当の増額を補てんする介護夜勤対応者補助金について報告。夜勤対応者補助金は、先進的な取り組みであり、問題点を解決する必要はあっても、他自治体へ波及させる運動が必要だと強調しました。



講演する山根教授

運動の可能性を語る

記念講演は、実践女子大学の山根純佳教授が、「介護労働の社会的評価とジェンダーケアの市場化に抗する運動の可能性」と題して話しました。冒頭に山根教授は、ケアが「相手のことを考えるべき」という強い規範に置かれてい

また、介護保険制度は「選択と競争」により良いケアができるという論理で形成・運用されてきましたが、労働者保護の仕組みとしては最悪の制度であることも説明。介護の仕事には専門性だけではない

く、労働の負担・精神的な負担などが含まれており、それを賃金に反映させるべきと主張する必要があると述べました。最後に「公共財としてのケア」を訴えていくことが必

診療報酬は医療行為の評価



こなつのフムフム!

社会保障を考える

診療報酬と患者負担

こなつ「医療・介護・福祉は社会保障だから、わたしたちは社会保障の担い手でもあるんだね」

カイ「そつだよ。だからぼくたちの働く環境を良くすることは、社会保障の充実にも繋がるとだ」

こなつ「でも例えば『診療報酬を引き上げて』って言えば、患者さんの負担が増えるんじゃないの?」

カイ「診療報酬引き上げと、患者さんの負担増は別ものなんだよ」

病院や診療所で提供される医療(一つひとつの「公定価格」)を定めているのが「診療報酬」です。患者は診療報酬点数表により決められた治療費の3割や1割などを負担し、医療機関は患者に払ってもらった窓口負担の残りを保険者に請求します。診療報酬は病院や診療所などの保険医療機関に対し、保険診療の基準を示し、ルールに則った医療の提供を義務付け、それにより患者・国民が受ける医療の質と量を定め保障する機能を果たしています。

診療報酬が改定されると、医療機関は可能な限り点数を高く取ろうとしたり、人員体制や施設設備、仕事の進め方を変えようとする。これは改定に合わせた対応しなければ経営悪化を招くからです。経済誘導に乗るしか経営を維持できないという状況は、結局は政府の狙い通り、病院の機能分化や病棟への無資格者導入などが職場ですむこととなります。

診療報酬は医療行為の評価であり、金銭の対価として行われるわけではありません。ヨーロッパのように患者の窓口負担がない国もあります。患者負担の問題は、その国の政府が、医療費全体に対してどの程度の負担を国民に強いるかという問題でもあります。(参考:日本医労連社会保障ブックレット)

医療費負担割合を決めるのは政府

分散会の様子



分散会の様子

組合説明会の準備はすすんでいますか？ ～すべての新人を労働組合に迎えよう～

「春の組織拡大月間（組合員拡大、共済推進）」がスタートしています。毎年、年間の加入者数の7割程度を占めているのが、この春の月間の取り組みです。4月には新入職員が入职してきます。日本医労連では、この間、組合説明会の準備を呼びかけ、新歓グッズの紹介をしてきました。今回は、全医労と愛知県医労連から説明会準備の様子が届きましたのでお知らせします。

参考▶ 発文書第120号・第139号、医療労働者第1844号

愛知

愛知県医労連は、2月15日～16日に組織拡大・共済推進合宿を開催し、13組織32人（うち子ども4名）が参加。1日目は秋の到達と春の組織拡大に向けて意思統一を行い、京都医労連・坂田政春書記長による組合加入促進の取り組みや会議運営に関わる記念講演と、各組織からの報告がありました。2日目は新人さんを組合に誘うロールプレイや共済学習を行い、グループで討議しました。



全医労

全医労では、各地方協や地区ごとに4月の組合説明会のシミュレーション「新歓ラボ」の開催を呼びかけています。

東海北陸地方協では、3月8日に青年委員会の中で「新歓ラボ」を開催。18人对話の練習を行いました。練習を終えた参加者からは、「自分が体験した青年部活動などは自信を持って伝えられるが、武器となる医労連共済や組合活動の内容については説明できるように事前に打ち合わせをしておく必要があると思った」「説明だけだと堅苦しい雰囲気になってしまうので、たまには冗談を挟み、リラックスした状況を作りだすことが大切と感じた」などの感想が寄せられました。



▲座っている新人に声掛けの練習中・東海地方協

4つの支部からなる佐賀地区では、3月6日に地区執行委員会会で「新歓ラボ」を開催。九州地方協の闘争委員2人も参加し、全体で13人の参加でした。新歓100%加入頑張ります！



▲加入説明の練習場面・佐賀地区

女性協 権利が生かせる人員確保を 厚労省に要請

日本医労連・女性協議会は2月28日、「母性保護と両立支援」について厚労省要請を行いました。要請には、女性協委員12人が参加し、厚労省から12人が対応しました。

進まない生理休暇取得の実態

生理休暇取得状況と取得が進まない原因について厚労省からは、「令和2年度の調査では、生理休暇の請求者がいた事業所の割合は3・3%と低い現状。取得が進まない理由として、生理休暇制度そのものが周知されていない現状がある。引き続き『働く女性と生理休暇に関する応援サイ

ト」において周知徹底を行う」との回答がありました。参加者からは、根本的な原因は人手不足であり、権利があっても使えない問題と指摘しました。

母性保護と両立支援

「養育両立支援休暇」や「子の看護等休暇」について参加者からは、「母性保護制度や両立支援制度が整ってきているが、申請しても人員不足のため働かせざるを得ない現状。自分の生活や命を危険にさらしながら業務をこなしている妊産婦もいる。妊産婦の夜勤や時間外労働を全面的に禁止すべき」と要求しました。

厚労省に要請

勤務間インターバル制度について厚労省は導入促進について取り組んでいるが、参加者からは、「日本医労連の調査でインターバル協定を締結している施設は、17・6%にとどまっている。医療現場は夜勤があるので、12時間未満の勤務間隔で働いている施設が52・4%、8時間未満の勤務間隔で働いている施設が37・5%ある。日勤深夜などもある。勤務間インターバルをも



っと医療現場にも浸透させていかないと働き方の改善にならない」と訴えました。

「諸外国の看護師の働き方」について厚労省は、調査中であり、今年度中にとりまとめ公表すると回答しました。最後に、大幅増員と処遇改善を強く訴えて要請を終えました。

自動車共済で家計の負担見直し

医労連共済だより

団体割引率12・5%

自動車共済の団体割引率は24年10月～25年9月まで12・5%となっています。物価高騰で家計の負担が大きくなっています。皆さん、まずは見積もり依頼をしてください。安さを実感でき、見積りをした方の半数が自動車共済を選んでいきます。家族の車も自動車共済にする方も多くいます。

他保険の等級も引き継げます。保険の更新時期がくる前に一度お見積もりください。

加入者からのお手紙

◆補償内容がシンプル

医療の眼

ドラマに考えさせられること

あまりドラマを見ない私が、毎週欠かさず観ている「御上先生」という番組があります。東大合格者を多く輩出するエリート校を舞台に、制度をつくる側である官僚と制度に苦しめられる側である教師の両方を兼ねる「官僚教師」が高校生を導きながら、権力に立ち向かっていくという内容です。テーマには、ヤングケアラーや生理の貧困などの社会問題を取り上げられ、生徒たちが自分たちにも降りかかっている問題について議論し合い、解決に向けて行動するさまを毎週観るたびに、今日に足りないのは、自分たちを取り巻く問題について議論し行動することだと考えずにはいられません。

「考える」ことを導くことが労働組合の役割

主人公の「御上先生」は、問題が起きた時に必ず生徒たちに「考えて」と言って議論を投げかけます。

職場にたくさんの問題があっても、自分たちがどのように行動すれば改善できるのか、どうしたら働き続けられる職場に

自分たちを取り巻く問題を「考える」

職場を変えるのは一人ひとりの労働者

なるのか考える前に、諦めて職場を去っていく労働者が少なくないのではないのでしょうか。だから賃金はなかなかあがらない、働き方もよくなるという状況が続いているのではないかとも思います。労働者が自分を取り巻く問題を考え、議論し行動に導くことが、労働組合の役割だと考えます。

今、医療・介護現場は非常に厳しい状況に置かれています。日本も昨年春闘から賃上げ基調となりましたが、医療・介護分野だけ置き去りにされたままです。25春闘では、すでにイオングループの労働組合が6・71%、パート給6・97%の賃上げで妥結したことをはじめ、大企業の92・8%が賃上げを表明していることから賃上げ基調になることが予測されます。この25春闘で医療・介護分野で賃上げされなければ、他産業との賃金格差はますます広がるばかりです。

「御上先生」は、よく「パーソナル・イズ・ポリティカル」という言葉を使っています。「個人の生きづらさは個人の問題ではなく、社会の問題」という意味で、「働き方がつらい」とか「給料が低くて食べるのに精いっぱい」という問題は単に個人の問題だけなのではなく社会全体の問題だから、政治が解決すべきだということなんです。しかし、政府は大企業や富裕層の優遇と大軍拡にまっしぐらで、国民のいのちや暮らしを守るという視点を持っていません。そのような政府に対して愚痴や文句を言っているだけでは何も変わりません。私たち国民一人ひとりが声をあげ、行動することが社会を変える唯一の手段です。

冒頭でも触れましたが「御上先生」は、生徒たちの周りに問題が起きるたび「考えて」と議論を投げかけます。私たちも自分が置かれている状況と、それを取り巻く問題を捉えて考え、行動することが必要です。

佐々木悦子